

審議会等の会議の記録

会議の名称	第1回 伊勢崎市健康づくり推進協議会
開催日時	令和7年7月14日(月) 13時30分～14時30分
開催場所	伊勢崎市役所東館3階 災害対策室
出席者氏名	委員：12名（13名中12名出席で会議成立） 高橋委員、羽鳥委員、岡部委員、矢部委員、篠崎委員、塩生委員、阿久津委員、中西委員、亀井委員、織田委員、高木委員、下城委員、 事務局：13名 石橋部長、中野副部長、加藤課長、村越所長、堀越技監、新井技監、丸橋所長補佐、築瀬課長補佐、渋澤係長、奥川係長、吉田係長、櫻井係長、日向野主査
傍聴人数	0名
会議の議題	委嘱状交付式 1. 開会 2. 委嘱状交付式 3. 市長あいさつ 4. 閉会 健康づくり推進協議会 1. 開会 2. 委員自己紹介 3. 事務局職員紹介 4. 会長・副会長の選出 5. 会長あいさつ 6. 議事 （1）令和6年度事業実績報告 （2）令和7年度事業計画説明 （3）新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について （4）その他 7. 閉会
会議資料の内容	令和6年度保健事業実績 （令和6年度保健事業実績、令和7年度保健事業計画） 伊勢崎市新型インフルエンザ等対策行動計画の概要について

<p>会議における 議事の経過 及び発言の要旨</p>	<p>委嘱状交付式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 市長あいさつ 4. 閉会 <p>健康づくり推進協議会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員自己紹介 3. 事務局職員紹介 4. 会長・副会長の選出 選出方法について審議会委員に諮ったところ、事務局一任との声あり。 事務局より、会長に高橋ゆかり委員、副会長に塩生恵美子委員を提案したところ、委員一同より異議なしとの声をいただく。 会長に高橋ゆかり委員、副会長に塩生恵美子委員を選出。 5. 会長就任のあいさつ 6. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度事業実績報告 (2) 令和7年度事業計画説明について <p>事務局 資料「令和6年度保健事業実績」に沿って説明</p> <p>【質疑】</p> <p>委員 MRワクチンに関して、ワクチンの製造の影響もあり、ワクチンが足りないというのが問題にはなっているが、やはりMRワクチン接種率95%以上を維持するというのは世界的にも非常に重要で、アメリカは95%を切ってしまったために、近年、麻疹の患者が増えて、麻疹による死亡が3名出たと話題になった。ヨーロッパの方でも麻疹はどんどん広がっていて、やはり95%以上維持することが非常に大事となる。未接種の方々に対して、今後どのようにアプローチしていくか、考えを聞かせていただきたい。</p> <p>事務局 全国的にワクチンが偏在化した影響で、3月に令和6年度の接種対象者は急遽ワクチン接種期間が2年間延長になったため、例年3月実施している電話勧奨を見合わせ、4月に未接種の方へはがきを発送した。医師会の協力により、伊勢崎市の場合はそれほど問題なくワクチン接種は進んでいる。今年度に入ってMRワクチンも1期2期合わせて1,000人以上受けているので順調である。95%維持できるように今年度以降も進めていく。</p> <p>委員 今後、数字として年齢毎に接種率が出せるのか。</p> <p>事務局 出せる。</p>
-------------------------------------	--

委員

骨粗鬆症検診について、全国的にも受診率が低いというのが問題で、伊勢崎も一桁という数字が出ている。他の地域で骨粗鬆症検診の状況をみると、5年ごとに実施している地域もある。伊勢崎は10年ごとの実施なので、40歳、50歳、60歳の女性しかチャンスがなく、このチャンスを逃すと自分の骨の健康状態を知ることができない。ぜひチャンスを活かして受診率を上げてもらえるといいと思う。もう少しPRできると良いが、今後周知する考えをお聞きしたい。

事務局

伊勢崎市では骨粗鬆症検診を40、50、60歳の節目年齢の方を対象に実施しているが、この件に関しては以前にもこの協議会で議題となった。

対象の年代については今後、健康増進法に基づいたものに近づくよう検討していく予定。

また、若い方は痩せを美徳としており、若い方の骨粗鬆症も問題となっているため、40歳以上の方と共に啓発を始めている。健康寿命が長くなってきているので、今後も自分の体を節目で確認していけるような健診を考えていく。医師会の先生方とも相談しながら周知方法や健診のやり方は検討していく。

委員

新しく保健センターができ、放課後、高校生が勉強している姿を目にし、プレコンセプションケアに取り組むことができると思う。高校生に対してホールに掲示し、啓発すると良い。

事務局

新しい保健センターは市民への健康情報発信の場であり、いろいろな方が多目的に利用していただける場ということで、新たな試みとして様々な人への周知を進めたい。

委員

母子保健について、受診率をみると、4か月児健診、10か月児健康相談、1歳6か月児健診、3歳児健診、すべて90%越えだが、2歳3か月児個別歯科健診はコロナ以降、医療機関で受診する個別健診になって、受診率が70%代となっている。今後このまま続けていくのか、また、個別で実施するメリットを伺いたい。

事務局

2歳3か月児個別歯科健診はコロナ以降、医療機関で受診する個別健診ですすめさせていただいているが、令和4年、5年、6年の受診率をみると徐々に上がってきている。今後も受診いただくよう啓発していく。個別健診は土曜日など個人の利便性を考えながら受けることもできるので、引き続き周知に努める。

(3) 新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について

事務局

資料に沿って説明

(4) その他

事務局

なし

【質疑】

委員

歯科の関係で、1歳6か月児健診において、むし歯総数は17本、2歳3か月児歯科健診では79本と、多少増えていくのは仕方ないと思うが、3歳児健診では560本と、急に数が増えている。

3歳児健診は法定健診ということで100%に近い受診率だが、2歳3か月児歯科健診では、受診率70%なので、30%の方が未受診であり、その30%の方がむし歯を増やしているかもしれない。これに関しては細かい分析をしていないので分からないが、あるいはそれとは関係なく、全体的に増えているのか。この年代ではネグレクトなど不適切な育児にも関係するところなので、以前にも審議いただいたが数字的には変化がない。

委員

歯科のところに関連して、歯周病検診で新たに対象を20歳、30歳を追加したということで、若い方への働きかけがされてうれしく思う。全体の受診者率が令和5年に比べて令和6年は減っていたが、実際20歳代、30歳代の受診者がどのくらいだったか教えていただきたい。

事務局

令和6年度の20歳の受診率は3.4%、30歳の受診率は4.0%と、20歳は少ないが、30歳は全体の受診率より少し高く受けていただいている状況。

委員

20代の方たちの受診啓発は、大学などに声掛けなどはしているのか。

事務局

今現在は働きかけていない。年度当初に受診券を同封し、個人通知を発送した。

委員

大学は専門的なことが中心で情報が入ってこない。情報を提供してもらえると、大学内にも保健の関係部署もあるので、啓発できる。

7. 閉会